



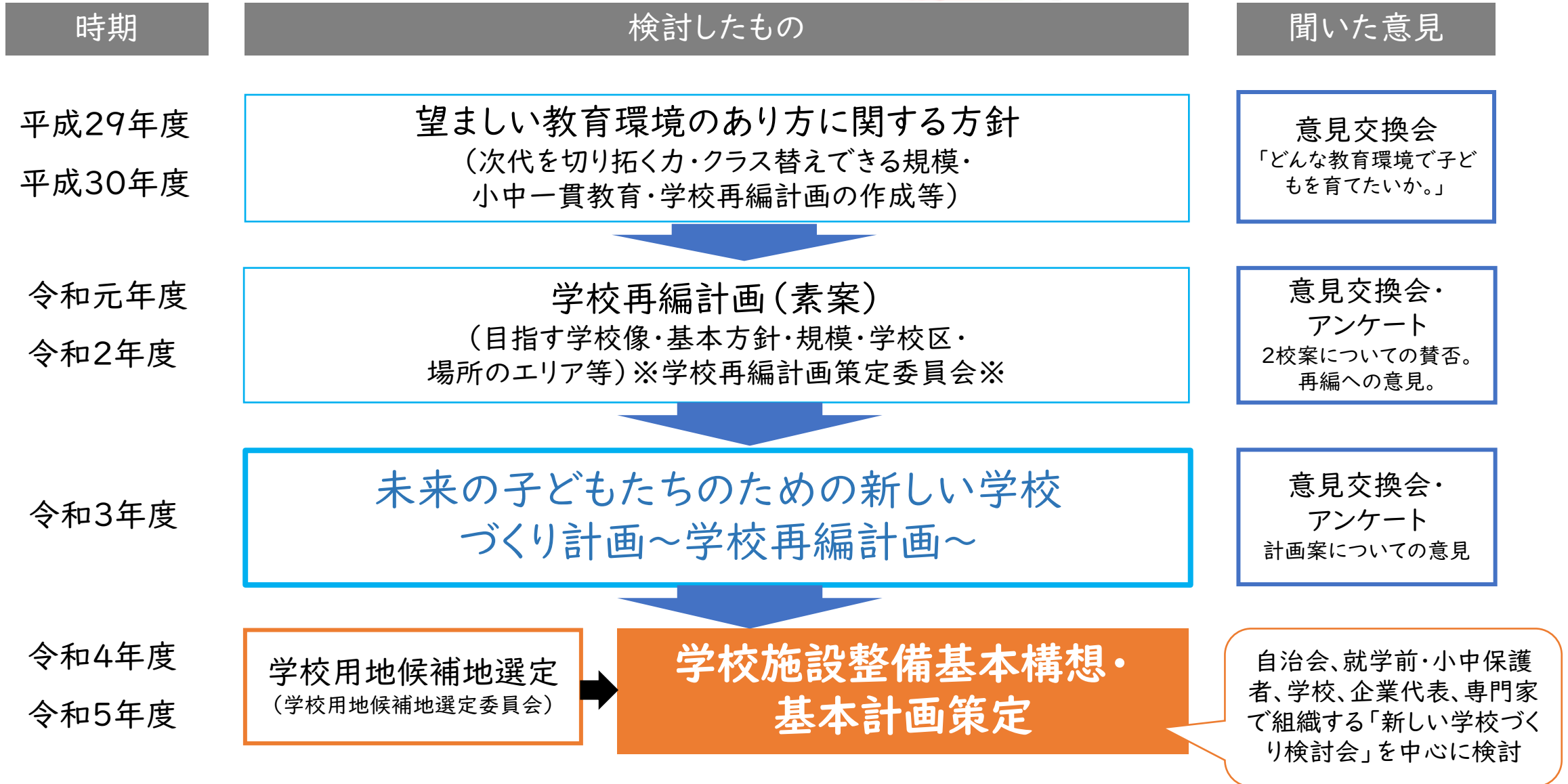
牧之原市義務教育学校 学校施設整備基本構想・基本計画

令和6年2月17日

牧之原市教育委員会学校再編推進室

現在までの流れ

教育環境のあり方の検討から
学校施設整備基本構想・基本計画の検討まで
延べ10,400人以上から約9,300件の意見



望ましい教育環境のあり方に関する方針

これからの予測困難な社会を生きる子どもたちが学び・育つ場所としてどのような教育環境が必要かを明らかにした。

- **子どもに付けたい力 = 次代を切り拓く力**

(主体的にたくましく生き抜くことができる人間力+新たな価値を創造する力)

- **キャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティ・スクールを推進**

(9年間の同じ教育方針の下、多様な人とさまざまな体験や活動を通して次代を切り拓く力を育む)

- **長期的に単学級にならない人数と規模を保障できるように、開校時の規模は、1学年3学級以上を基本。**

- **津波浸水想定区域外の安全な場所に変化に対応できる柔軟な施設をつくる**

学校再編計画の検討をスタート

未来の子どもたちのための 新しい学校づくり計画（学校再編計画） R4.3月策定

- 対象 市立小学校8校、市立中学校2校



ハードのこと

- ・目指す学校像
- ・学校区
- ・学校の場所（エリア）
- ・開校までのスケジュール 等

+

新しい学校
づくりに必
要なソフト

9年間で学ぶ義務教育学校

- 平成28年の学校教育法の改正で設置することができるようになった新しい種類の学校で、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う
- 1人の校長のもと、一つの教職員集団が、同じ教育方針で9年間子どもを育む

子どもたちへのメリット

- 異学年交流がしやすく、上級生への憧れや敬い、下級生への思いやりの心などが育まれる。
- 生活のきまりや学習スタイルが9年間統一されることで、安心と期待を持って学校生活が送れる。
- 専門性を持った教員が授業を行うことで、分かりやすく、つまずきにも丁寧な指導が受けられ、学力向上につながる

教職員へのメリット

- 個の学びや育ちを全教員で共有でき、指導しやすい。
- 小学校教員と中学校教員の良さが交わることで授業力の向上が図れる。

新しく2校の小中一貫校（義務教育学校）にする



- 御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校に通う生徒は、相良地域の義務教育学校に通うことを前提とする（御前崎市とは情報共有しており、詳細は今後協議をしていく）
- 牧之原市菊川市学校組合立牧之原小中学校については、今回の再編については対象外であり、別に今後の在り方を検討する。

学校再編計画の5つの基本方針

基本方針1 すべての子どもが主役の学校

すべての子どもにとって、学びやすく活動しやすい教育環境を、子ども主体で考えます。

基本方針2 「次代を切り拓く力」を育む学校

一人一人の可能性を伸ばし、次代を切り拓くために必要な力（人間力）を育むことができる環境をつくります。

基本方針3 安全・安心な学校


安心して学校生活を送れるよう、津波の浸水想定区域外に、自然災害に強い学校施設をつくります。

基本方針4 地域の未来を担う子どもを育む学校

子どもたちが地域愛を育むことができ、学校がみんなの居場所となるようにします。

基本方針5 働きやすく充実した指導ができる学校

教職員が働きやすく、充実した指導ができる組織体制と施設環境を整備します。

An architectural rendering of a modern school interior. The central feature is a large, multi-level staircase with wooden treads and risers. The stairs are divided into sections with different colored carpeting: yellow, green, and red. People, including children and adults, are shown using the stairs and sitting on the steps. To the right, there is a study area with round tables and green chairs. The walls are made of light-colored wood, and the overall atmosphere is bright and open.

学校施設整備基本構想・ 基本計画の概要

通学方法の距離の考え方

・スクールバスは無償

学年	徒歩	自転車	バス
1~2年生	2.5km未満		希望制
3~6年生			2.5km以上
7~9年生		2.5km以上	6km以上

【バス通学の対象となる地域】 ※他の地域は距離で対象となります

- ・萩間地区全域の1~6年生
- ・坂部区全域の1~6年生
- ・地頭方地区全域の1~9年生

通学路の考え方

- 通学路は教育委員会が暫定的に決定し、開校後、必要に応じて校長が変更できる。
- 防犯面も考慮した上で、既に整備されている又は整備計画がある道路を優先して通学路とする。
- 開校準備の段階に、通学班、徒歩・自転車の詳細な通学ルート、バスの停留場所及びルート、通学路の高低差の扱い、班・組でまとめるなどの詳細な考え方について検討する。

学校施設のコンセプト

コンセプトとは

学校施設をつくるにあたり、大切にしたい考え方をみんなが共有でき、機能や使い方などを考える際によりどころとなるもの

学校再編計画の目指す学校像「みんなの学校」を両地域の共通コンセプトとし、そこに相良地域・榛原地域が特に大切にしたいことを、検討会の意見を元に表現する

学校施設のコンセプト（相良）

『夢につながる みんなの学校』

ワタシをつくるスタートラインとして、教職員、地域、保護者がみんな子ども主体性やこころざしを育てることにより、子どもの夢の実現につなげることができるような学校とする。

- 自分の夢や未来に向うワタシをつくるスタートラインとなる学校にしたい
- 夢に向かうために「ワタシ」というアイデンティティを確立し、さまざまなアイデンティティを尊重することが大切
- 子どもが夢に向かうための志を育むための地域、保護者等のサポートや、相良らしい体験と環境を通しての共感・感動が「ワタシ」をつくり、前へ進む原動力となる
- 子どもの自由度や個性を尊重し、のびのび学ぶことができる学校施設とし、子どもの主体性を育みたい
- 新しい学校は、地域の人も学び、集まることができる学校とすることで、子どもだけでなく地域全体の未来にもつながる

「ワタシをつくる」、「夢」「未来」、「のびのび学べる」という視点を新しい学校施設に反映

学校施設のコネプト（榛原）

『地域と共に わくわく学び・体験できる みんなの学校』

子どもが地域の人たちと共に、楽しくわくわくするような多様な学びや体験ができる学校とする。

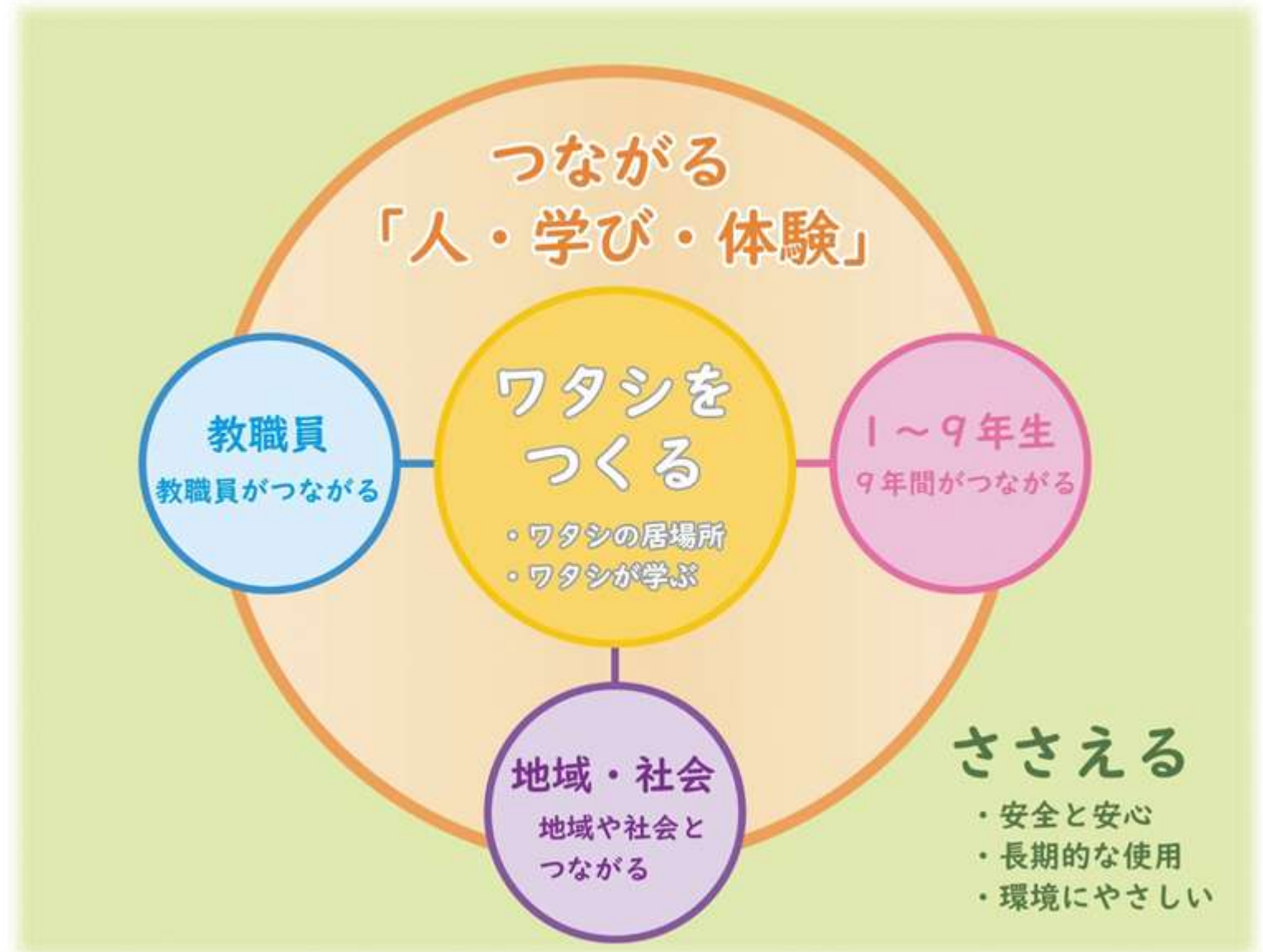
この学びや体験、人とのつながりが子どものころざしを育て、多様性や個性が尊重される中で子どもがやりたいことにチャレンジできる環境を整える。

- 自分の個性に気づき自分らしさを大事にできる、いろいろな個性があることを知り多様性を尊重できる、自分の未来に向かってころざしを持つことができるような「ワタシ」をつくる学校にしたい
- 「ワタシ」をつくるためには、地域との関わりがとても重要。多様な人、考え、立場、ものとの出会いが子どもの気づきや自己肯定感・自尊感情を育み、自分の未来に向かって一歩踏み出す力となるため、「地域と共に」を重要な要素として盛り込む
- 子どもの主体性を引き出し様々なチャレンジができる、子どもが学校が楽しいと思うことができるよう「わくわくする学び・体験」も大切にしたい

「ワタシをつくる」、「地域との関わり」、「わくわくする」という視点を新しい学校施設に反映 13

学校施設の整備方針

- 学校施設のコンセプトと施設整備計画を結ぶ役割
- コンセプトをつくる過程で出されたキーワードをつなげて作成



ワタシをつくる

1 ワタシの居場所

居心地がよい

ワクワクする仕
掛けや工夫

木材使用

感染症・熱中
症対策



半屋外空間(イメージ)

2 ワタシが学ぶ

ユニバーサル
デザイン

どこでも
学べる

だれでも
学べる

全館空調・Wi-Fi、
半屋外・図書室・
プレゼンスペース

障がいのある子ども
日本語指導が必要な子ども
登校に不安がある子ども

つながる「人・学び・体験」

①9年間がつながる

普通教室は、多角的な学習、個別最適な学びと協働的な学習に対応したゆとりある広さ

活動範囲を柔軟に変更できる



- **最大74㎡の広さ**
(現在の全国平均64㎡)
- **セミオープン型**
- **可動式家具**



普通教室とオープンスペース(イメージ)

1～9年生が過ごす施設

- 前期課程・後期課程が別々に使用できる体育館と運動場
- カリキュラムに対応した特別教室の数



共用使用できるようにする

- 日常的に交流できる空間



プレゼンスペース (イメージ)

②教職員がつながる

コミュニケーションとりやすい



- 職員室は1つ



打ち合わせや会議の人数・内容により使い分けることができる



- 小会議室を兼ねた相談室、中会議室、多目的ルーム、普通教室エリアに設置する職員コーナーなどを整備

③地域や社会とつながる

- 地域活動室（CSルーム）、農園・花壇等の整備
- 体育館、武道場、グラウンド、多目的ルームは
開校時から地域開放（グラウンドにはナイター照明設備）
- 特別教室（音楽室など）はニーズが高まったときに地域開放
- 海外ともつながることができる設備
- 地域らしさを表現できる外観

複合施設の考え方

【放課後児童クラブ】

- 校舎内に設置（相良地域：3支援120人、榛原地域：5支援200人）
厚生労働省の通達では「学校敷地内の設置が望ましい」とされている。
学校と放課後児童クラブが共用可能な部分は可能な限り共有する。

【給食調理場の考え方】

- 学校施設内に給食受室を用意する。
- 給食受室に隣接した学校敷地内に、将来的に給食調理場を建築できる場所を確保する。

ささえる

1 安全と安心

立地と建物の
安全

災害時の拠点

防犯

2 長期的な使用

鉄骨造(S造)

- 適性な管理をすることで長期的な使用が可能(目標耐用年数80年)
- 耐震壁がないことにより、将来的に、社会や学びの変化に応じた改修等がしやすく、汎用性が高い。

3 環境に優しい

Nearly ZEBを目指す



地域別計画（相良地域） 学校敷地と大まかな配置

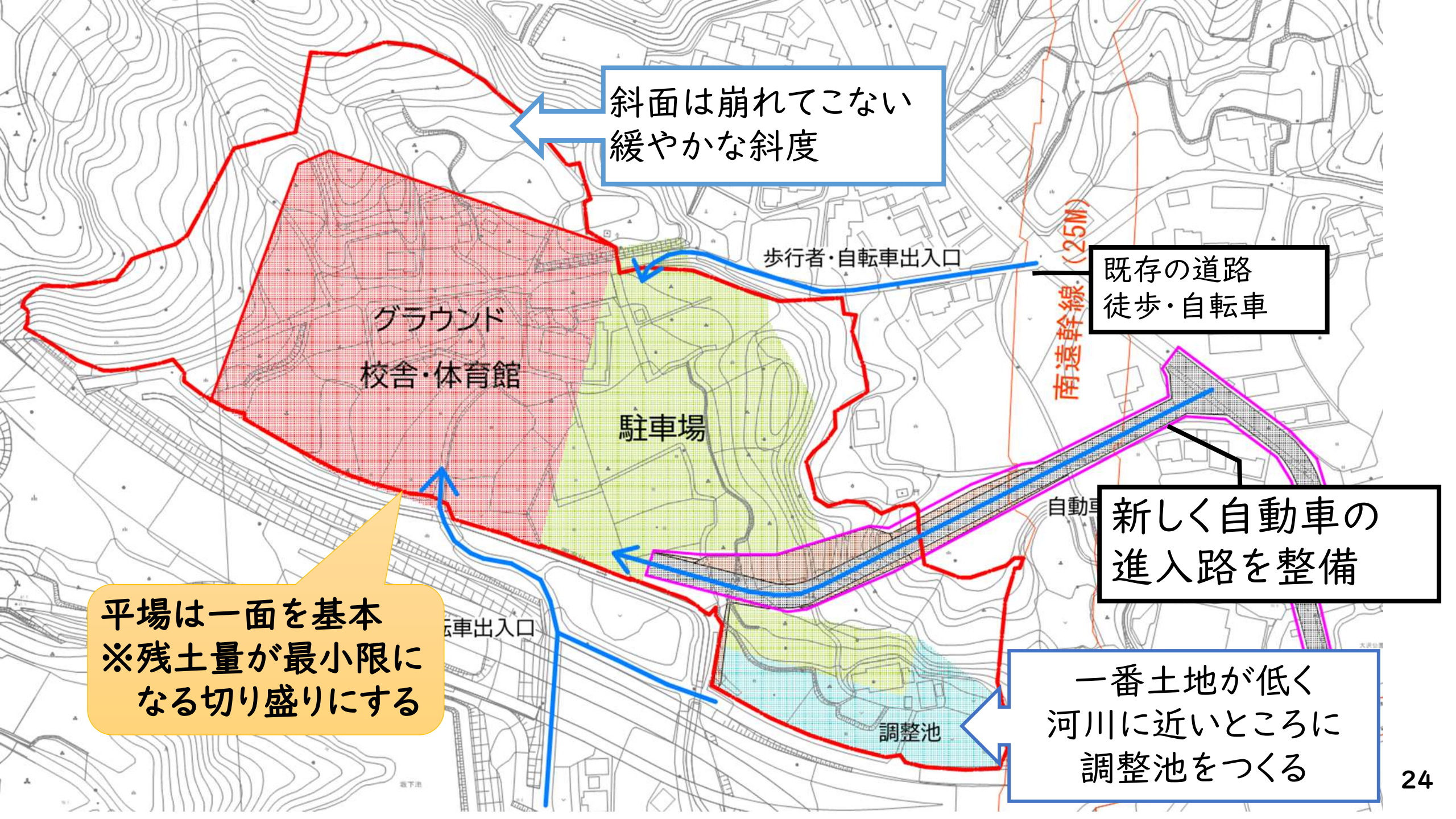
建設候補地 大沢IC北側周辺



大沢IC北側周辺

敷地面積 約65,000㎡

平場面積 約42,000㎡



斜面は崩れてこない
緩やかな斜度

歩行者・自転車出入口

既存の道路
徒歩・自転車

南遠幹線 (25M)

グラウンド
校舎・体育館

駐車場

新しく自動車の
進入路を整備

自動車

平場は一面を基本
※残土量が最小限に
なる切り盛りにする

自転車出入口

一番土地が低く
河川に近いところに
調整池をつくる

調整池

地域別計画（榛原地域） 学校敷地と大まかな配置

建設候補地 榛原中学校及び周辺



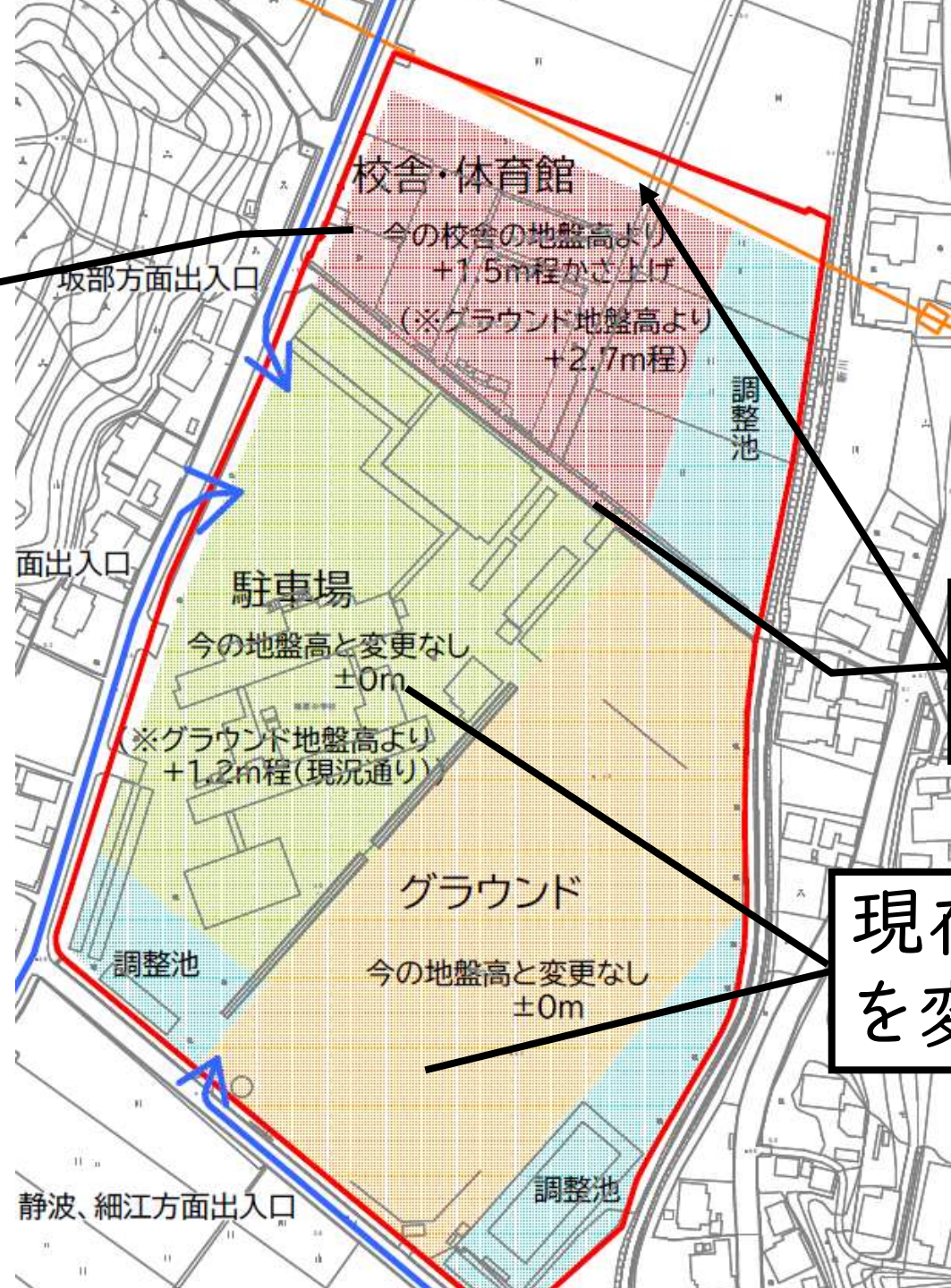
榛原中学校及び周辺

敷地面積 約72,000㎡

平場面積 約63,000㎡

河川の洪水(レベル2)浸水想定にも対応する高さ
今の校舎の地盤高より1.5m程度
高くする

※周辺の渋滞緩和
対策(駐車場に
ロータリーの整備、
迂回路等)



道を北側に付け替えて敷地を一体化にする

現在の地盤の高さを変えない

開校までのスケジュール(案)

【榛原地域】

		2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
工種		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
校舎新築工事	設計・本体工事	基本設計・造成設計(予備道路含)・実施設計			建築工事			引越し	義務教育学校 校舎解体	外構整備完了
	造成工事・解体・外構	地元説明会・用地交渉	造成工事	解体設計	外構・プール	仮ロータリー	仮ロータリー	駐車場・ロータリー整備		
仁田	仁田体育館解体工事	設計	解体工事					開校		
道路	道路整備工事		道路実施設計	道路整備工事						

2030年開校予定

【相良地域】

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度
校舎新築工事	設計・本体工事	造成設計(道路含)				基本設計・実施設計		建築工事		引越し	義務教育学校 開校
	造成工事・外構		用地交渉	造成工事				外構・ロータリー			
埋蔵文化	埋蔵文化財発掘調査		本掘1 試掘1	本掘2							
道路	道路整備工事	用地交渉	契約	仮進入路整備					進入路舗装		

2033年開校予定